



第37派遣海賊対処行動航空隊出国

ソマリア沖・アデン湾で海賊対処の任務に就く第37次派遣海賊対処行動航空隊（指揮官・米田一則 2佐）の出国行事が10月2日（水）、八戸航空基地において行われました。

派遣海賊対処行動航空隊の任務は、民間船舶を脅かす海賊等が乗船した船舶の警戒監視であり、各国の海軍等と協力し、船舶の航行の安全確保に努めることです。37次隊は、第2航空群に所属する隊員を基幹とする約60名で編成されており、第2航空群からの派遣は、平成22年2月の3次隊派遣以来、今回で12回目となります。

出国行事では、河野太郎防衛大臣及びソマリア沖・アデン湾方面派遣海賊対処部隊指揮官である糟井裕之自衛艦隊司令官の訓示を第2航空群司令が代読し、国際社会から高い評価を受けているこの任務にあたる派遣隊員へ激励の言葉とともに、任務を完遂して無事に帰国することを願う気持ちが伝えられました。その後、37次隊の指揮官から第2航空群司令へ出国報告がなされた後、37次隊の隊員は、ご家族や八戸航空基地の隊員に見送られながら、P-3Cに乗り込み、拠点があるジブチ共和国へと飛び立ちました。

ジブチ共和国では、灼熱の太陽が照りつける過酷な環境下での勤務となりますが、八戸航空基地隊員一同、37次隊の隊員が約3か月間の任務を完遂し、元気に帰国してくれることを心から願っています。



